

第IX部

否定(2) 否定基本構造と描写

否定の時空モデルでの扱いについては第VIII部で述べた。ここでは、否定を構造モデルで扱う。

第26章では、成立している肯定構造に否定属性 -(a) na. k- が付加されることにより主体と属性がその関係を失うことを述べ、これを図示する。

第27章では、主体に関わる否定描写が8種類に区別できることを述べ、構造図を描き分ける。表にも示す。

第28章では、客体に関わる否定描写が6種類に区別できることを述べ、構造図を描き分ける。表にも示す。

第29章では、主体と客体に同時に関わる否定描写の組合せについて述べ、構造図を描き分ける。表にも示す。

第26章

否定の構造

26.1 否定の構造

ここに肯定文がある。

雨の降る。

この文の構造は「雨」という実体が「*hur-*(降る)」という属性をもつ形をしている(図26-1)。「肯定」とはこのように、構造形式において「ある実体が主体としてある属性をもつこと」ととらえることができる。これは「ある実体がある属性に対して主体となること」と表現することもできる。

これに対し、否定文

雨の降らない。

は、「雨」という主体が「*hur-*(降る)」という属性をもたないものとして考えることができる(26.2)。そこで、否定を図26-2のように構造表示することにする。

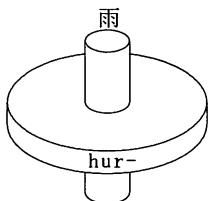


図26-1 肯定「雨の降る」

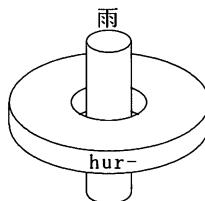


図26-2 否定

否定構造(図26-2)は肯定構造(図26-1)の主体と属性の結びつきを解除した構造になっている。「構造モデル」で考えると、「否定」はこのように、構造において「ある主体がある属性をもたないこと」と定義できる。

26.2 この文法で言う「属性」

「雨が降らない。」という否定構造においては、「雨」が「降る」という属性をもっていない。このようなとらえ方は疑問を生じさせるかもしれない。「降る」は「雨」の基本的な属性ではないか、なぜ「もたない」ととらえるのか、という疑問である。そこで、「属性」について少し触れておきたい。

この文法で「属性」と言っているのは、あくまでもこの文法で言う「属性」のことであり、哲学で言う「属性」のことではない。『岩波国語辞典』(第5版)の「属性」の項には

哲学では普通、それに固有の性質を言うが、情報科学などでは、一時的にそなえる場合も含めて対象の特性を言う。

とある。哲学と情報科学では「属性」の意味するものが若干異なっているのである。この文法で言う「属性」も、哲学での「属性」とは異なり、主体(実体)がそのつどもつ特性を意味している。

哲学的には「雨」は「降る」という属性を恒常的にもつが、この文法では、話者の認識状況に応じて、「雨」は「降る」を属性としてもつ場合も、もたない場合もある、とする。

26.3 否定属性 -(a) na. k- が否定構造を生む

① 否定属性 -(a) na. k- の付加

否定の構造(図26-2)は、肯定構造を形成する動属性に -(a) na. k- (ない)という否定属性がつけ加えられた結果として生じる。

この否定属性 -(a) na. k- が肯定構造に付加されるのは、判断者(話者)によってその肯定構造の示す事態が時間と空間を占有しないものとして、つまり、現実世界に実現しないものとして把握されるからである。

② 「肯定・否定」と「真・偽」

ちなみに言えば、この把握が現実世界に対応していれば、その判断構造は真となり、対応していなければ偽となる。「肯定・否定」は判断者の現実世

界に対する判断に関わるものであり、「真・偽」はそこに形成された判断構造と現実世界との対応に関わるものである。肯定でありながら真と偽の可能性があり、否定でありながら真と偽の可能性がある。「肯定・否定」と「真・偽」は別のことがらである。

③ 否定構造図示

否定属性 -(a)na. k- が「雨が hur-」という肯定構造に付加されることによって、主体と属性の関係にあった実体(雨)と動属性(hur-)の両者がその関係を失うことになる。このことを図26-3, -4のような構造で表す。

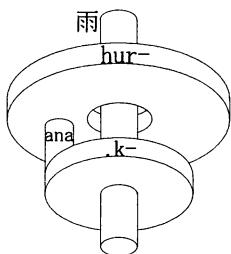
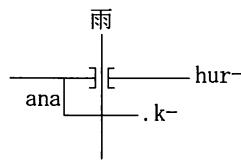


図26-3



「雨の降らない」

図26-4

否定属性 -(a)na. k- は、付着先の動属性(hur-)がその主体(雨)と保つている結合を解除してしまう。

④ 否定属性 -(a)na. k- の -(a)na の部分

否定属性 -(a)na. k- の -(a)na の部分は、その前につく動詞が hur-(降る), sak-(咲く), os-(押す)などのように子音で終わるときに a が現れて -ana となり, mi-(見る), tabe-(食べる)などのように母音で終わるときは a は現れずに -ha となる。

子音末 hur-ana. k- sak-ana. k- os-ana. k-

母音末 mi-na. k- tabe-na. k-

この -(a)na の部分は否定属性が動属性と直接の関係をもつことを示している。そこでこの直接の関係を、構造上では図26-3, -4に見るように、否定

属性が動属性に接触するという形で表現することにする。(もし、-(a)na. k- がこのような直接の関係をもつものでなく、単に非存在を表す na. k- と同じものだとすれば、連続描写となり、hur-i=na. k- となるはずである。)

⑤ 否定属性 -(a)na. k- は動属性と結合して存在する

また、この否定属性 -(a)na. k- は単独では存在できないという性質がある。-(a)na. k- が存在するためには hur- のような動属性の存在が前提となる。それで、ある主体(雨)が否定属性をもつということは、たとえば hur-ana. k- というような、否定属性が動属性と結合した形での属性をもつことを意味している。つまり、図26-3,-4の場合、「雨」は -ana. k- という属性をもっているのではなく、hur-ana. k-(降らない)という属性をもっているのである。

⑥ 「は」の図示

なお、「雨のは降らない。」のように「は」によるふちどりが行われた場合の構造図示は次のようになる。(簡略図示では、「は」は主体と否定属性の交点に○印をつけることによって表示する。しかし、「は」は構造図上に示さなくてもよい。3.1③参照)

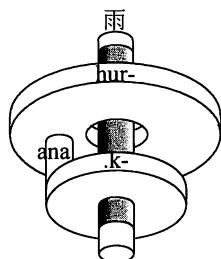
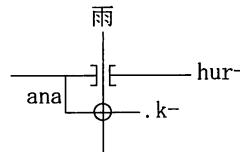
図26-5 「雨のは降らない」

図26-6

では、このような否定構造からどのような否定文が描写されるのかについて、第27～第29章において考えてみたい。

第27章

主体に関わる否定描写

27.1 8種類の主体描写

図26-3, -4に示された構造「雨の降らない」の描写について考えてみる。

主体に関わる描写文としてありうるのは次のような8種類のものである。

(ゴシック文字は卓立を示す。ふつう、そこが強く発音される。)

- ① 雨、降らない。(〈午後は〉天気がよい。)
- ② 雨は降らない。(〈午後は〉天気がよい。)
- ③ 雨は降らない。(しかし、雪は降る。)
- ④ 雨が降らない。(降ってほしいなあ。)
- ⑤ 雨、降らない日にこの作業やってる。／ 雨、降ってない。
- ⑥ 雨は降らない日が好きだ。／ 雨は降ってない。
- ⑦ 雨は降らない。(しかし、風は吹く。)
- ⑧ 雨が降らない。(雪ではなくて、雨が降らない。)

3.3 及び 3.4において、主格には3種類のものがあり、肯定の場合にはそれが8種類の主語の形で実現することを述べた。否定の場合も同様である。

(『日本語構造伝達文法』2000年版では「事象話題主語」「事象主題主語」は存在しないものとしたが、これを改めることにした。出来事の発生していない状況を、主体に比重をおいて述べる主語の形式は、上例⑤⑥のように、特に従文中において可能であるからである。)

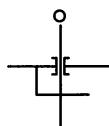
なお、以下の記述において、「構造表示文」と「標準的な文」という用語を使用する。「構造表示文」というのは、その文の描写されるもととなっている構造の、特に格についての情報を保つ文で、「雨の降らない。」、

「雨~~は~~は降らない。」のように「 \emptyset_1 」、「~~は~~」などの、通常の文には現れない記号が入っていることが多い。一方、「標準的な文」というのは、「雨、降らない。」や「雨は降らない。」のように、その文がふつうに発話される形のものである。

また、実体(主体・客体)は否定の原因要素になる可能性があり、その場合にはその実体をはずすか他の実体に換えるかすれば -(a) na. k- がはずれて肯定構造になる。

それでは、①～⑧一つひとつについて検討してみる。

27-① 「(副)話題主語」

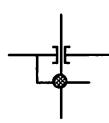
 第1主格の実体に「は」の適用をせず、そのまま主語として
描写すれば、
雨 \emptyset_1 降らない。(構造表示文)

となる。これは「雨」について述べる文であるが、口語的である。このときの主語のあり方を特に「(副)話題主語」と呼ぶことにする(なぜ「(副)」がつくのかについては次の 27-②「(副)主題主語」の説明を参照)。

構造図示においては、主体の上に○印をつけて(副)話題主語であることを示す。(副)話題主語の後には若干のポーズが置かれことが多い。

雨、降らない。(標準的な文)

27-② 「(副)主題主語」

 第1主格の実体に「は」を適用して主語として描写すれば、
雨 \emptyset_1 は降らない。(構造表示文)
となる。これは「雨」について述べる文である。実際には
雨は降らない。(標準的な文)

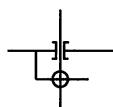
となる。

「は」は、3.1③で見たように「実体ふちどり」の「相対化描写」機能をもっている。「ふちどり」の内部に比重がある場合には、その実体(「雨」)

そのものについて関心が高く、その実体を「主題」とする結果になる。それで、このタイプの主語は「主題主語」と呼ぶことになる。構造図示においては、ふちどりの○印の内部を塗りつぶして●のようにしておく。（「ふちどり」の外部に比重がある場合は、次の27-③「対比主語」で扱う。）

ただ、同一構造中に別の実体が存在するような場合（「彼の頭がいい」のような複主体構造の場合、あるいは「彼女の小説を読む」のような客体をもつ構造の場合）には、文において主題が複数存在することもあり（「彼は、頭は」、「彼女は、小説は」），その場合には、本主題、副主題の別が生じる。それで、その可能性も取り入れて「(副)主題主語」という名称にしておく。

27-③「対比主語」……否定の原因要素の強調明示



第1主格にある実体に「は」を適用して主語として描写する。

雨の^はは降らない。（構造表示文）

この点では②の「(副)主題主語」と同じであるが、「は」のふちどりの比重が外部にあるという点で対照的である。

ふちどりの比重が外部にあるということは、他の実体を強く意識したうえで主語を主題化することを意味しており、主語を対比的に提示することにつながる。それで、このタイプの主語は「対比主語」と呼ぶことにする。

構造図示においては、ふちどりの○印の内部を塗りつぶさない形にする。

対比主語にはふつう卓立が置かれる。卓立のある部分をゴシック文字で示せば、次のようになる。

雨^はは降らない。（標準的な文）

この対比主語をもつ構造は、対比されるべき構造の存在を暗示している。その構造は、たとえば、動属性を同じくし、主語を異にする肯定構造であり、

雪^のは降る。（雪は降る。）

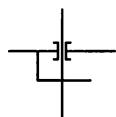
のようなものである。

対比主語は強調とともに明示された否定原因要素であるということもできる。否定の原因要素が対比主語という形で強調的に示される。これを他の主

語に換えれば、否定の原因要素がなくなり、否定属性 -(a) na. k- が外れて、肯定構造になる。

上の「雪のは降る。」は、否定の原因要素である対比主語「雨」が他の主語「雪」に換えられたために肯定構造になった例である。

27-④ 「事象主語」，⑤ 「事象話題主語」



第2主格は、主体と属性が初めから結びついている格であるが、ここではその否定形式を扱う。この格にある主体をそのまま主語として描写すれば、

雨が降らない。(構造表示文)(標準的な文)

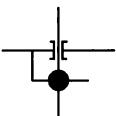
となる。これは「雨」について述べる文ではなく、雨が降らない「事象」について述べる文である。そこで、この主語のあり方を「事象主語」と呼ぶことにする。

「が」が省略されて話題化される場合には「事象話題主語」となる。

雨、降らない。／ 雨、降ってない。(標準的な文)

構造図示においては④、⑤いずれも○印等を用いる必要はない。

27-⑥ 「事象主題主語」，⑦ 「事象対比主語」



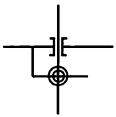
第2主格の主体に「は」を適用して主語として描写すれば、

雨がは降らない。(構造表示文)

となる(構造図示においては●印を使用する)。この文は事象について述べる文ではあるが、雨に重点があり、連体修飾節中に現れることが考えられる。

雨がは降らない日もある。／ 雨がは降ってない。

この場合の主語は「事象主題主語」と呼ぶのがふさわしい。



また、この「雨がは降らない。」の「は」が対比である場合もある。ただし、27-③の「主語の対比」を行う「対比主語」とは異なり、「事象の対比」を行うものなので「事象対

比主語」と呼ぶことになる(構造図示においては○印ないし◎印を使用する)。

事象対比主語にはふつう卓立が置かれるので、

雨は降らない。(標準的な文)

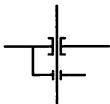
となる。これに対比される構造は、たとえば、主体も動属性も異なる

風~~が~~は吹く。(風は吹く。)

のようなものである。

ただし、事象対比が可能なのは、対比すべき事象が明瞭となる場合である。たとえば「霧~~が~~は消えない」が、対比すべき事象が明瞭とは言えないような場合には事象対比はむずかしいことになる。

27-⑧ 「選択主語」

 第3主格では、属性の設定が先で、主体はその後で設定される。この格では「は」による主体の主題化は行われない。

雨が降らない。(構造表示文)

という描写文になる。

これは「何が降らないか。」のような、主体を尋ねる疑問文に答えるような場合のように、主体が何であるのかを明らかにするために使用される主格である。「降らない」という属性が先に決定していて、その後でそれにふさわしい主体が選び出されるので、このタイプの主語を「選択主語」と呼ぶことにする。

この選択主語はふつう卓立を伴う。「が」は省略されないこともない。

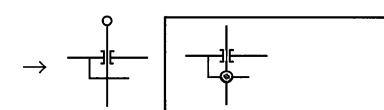
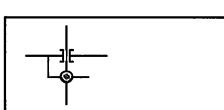
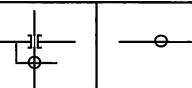
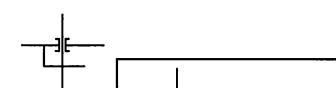
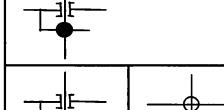
雨(が)降らない。(標準的な文)

構造図示においては、否定属性 -(a) na. k- の部分に主体の立つべき穴(簡略表示では「切れ目」)を開けておく。

以上のように、主体に関わる8通りの描写法の一つひとつの特徴が判明した。そして、それにふさわしい名称が与えられ、区別できるようになった。

表27-1

主体に関する否定描写一覧表

主 格		+「は」	対比構造例	No.	主語の種類	構造表示文	標準的な文	説 明
第 1 主 格	φ ₁		→ 	①	(副)話題主語	雨 φ 降らない	雨, 降らない。	主体について述べる (口語的)
			②	(副)主題主語	雨 φ は 降らない	雨は降らない。	主体について述べる	
			③	対比主語	雨 φ は 降らない	雨は降らない。 (雪は降る。)	同じ属性を持つ他の 主体との対比において その主体について 述べる	
第 2 主 格	が ₁		→ 	④	事象主語	雨が 降らない	雨が降らない。	事象について述べる
			⑤	事象話題主語	雨が 降らない	雨, 降らない。	事象の主体について 述べる (口語的)	
			⑥	事象主題主語	雨が は 降らない	雨は降らない。	事象の主体について 述べる	
第 3 主 格	が ₂	→ 		⑦	事象対比主語	雨が は 降らない	雨は降らない。 (風は吹く。)	他の類似的事象との 対比においてこの事 象について述べる
				⑧	選択主語	雨が 降らない	雨が降らない。	主体を尋ねる疑問文 に答える等, 主体が何 であるかを明らかにする

(7)の事象対比の「は」は○とともに◎でも示せる。

(太字は卓立を示す。)

表28-1

客体に関する否定描写一覧表

形式	対比構造例	No.	客語の種類	を格構造表示文	を格標準的な文	で格構造表示文	で格標準的な文	説明
- 2 3 0		①	(副)話題客語	酒を飲まない	酒、飲まない。	家で飲まない	家で、飲まない。	客体について述べる (口語的)
		②	(副)主題客語	酒をは飲まない	酒は飲まない。	家では飲まない	家では飲まない。	客体について述べる
		③	対比客語	酒をは飲まない	酒は飲まない。 (ビールは飲む。)	家では飲まない	家では飲まない。 (外では飲む。)	同じ属性に関する他の客体との対比においてその客体について述べる
		④	論理客語	酒を飲まない	酒(を)飲まない。	家で飲まない	家で飲まない。	事象について述べる
		⑤	事象対比客語	酒をは飲まない	酒は飲まない。 (たばこは吸う。)	家で飲まない	家では飲まない。 (外では遊ぶ。)	他の類似的事象との対比においてこの事象について述べる
		⑥	選択客語	酒を飲まない	酒(を)飲まない。	家で飲まない	家で飲まない。	客体を尋ねる疑問文に答える等、客体が何であるかを明らかにする

第28章

客体に関わる否定描写

28.1 6種類の客体描写

それでは、続いて、客体に関わる描写法について検討してみたい。

ここに「彼の酒を飲まない」という構造がある(図28-1, -2)。この構造には「彼」という主体のほかに、「酒」という客体が入っている。(ただし、図では「酒」を「は」でふちどりし、「酒は飲まない」にしてある。)

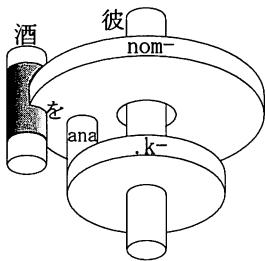
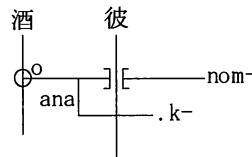
図28-1 彼、酒は飲まない

図28-2

ここでは客体の描写法について検討することになるので、客体のみを扱い、主体との関係については考えない。(主語・客体両者の描写法については次の第29章で扱う。)

この構造からいろいろな形の文が描写される。(主語は仮に話題主語にしておく。)

- ① (彼,) 酒、飲まない。 (だから、お茶を出そう。)
- ② (彼,) 酒は飲まない。 (だから、お茶を出そう。)
- ③ (彼,) 酒は飲まない。 (しかし、梅酒は飲む。)
- ④ (彼,) 酒を飲まない。 (だから、お茶を出そう。)

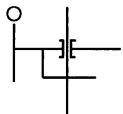
⑤ (彼,)酒は飲まない。 (しかし, たばこは吸う。)

⑥ (彼,)酒を飲まない。 (「何を飲まないか」に答えて)

以上のように、また表28-1のように基本的に6通りの文の可能性がある。この6通りの分け方は、主体に関わる否定描写に準じたものとなっている。

ここでは、客格は「を格」と「で格」を扱う。「で格」については「彼は家で飲まない」の構造を想定している。その構造は、図28-1, -2の「酒を」を「家で」に換えたものである。他の客格も「を格」、「で格」に準じたものとなる。

28-① 「(副)話題客語」



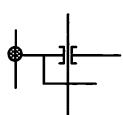
口語的にその客語を取り立てて述べるときは、原則としてその客語を文頭に置き、格詞を省略する。ただし、「で格」のように、格詞(で)を省略すると格が不明瞭になる場合には格詞を省略しない。話題客語はポーズを伴うことが多い。

酒を飲まない。 家で飲まない。 (構造表示文)

酒、飲まない。 家で、飲まない。 (標準的な文)

卓立を伴うと、③の「対比客語」に似た働きをすることもある。

28-② 「(副)主題客語」

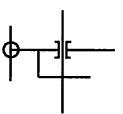


その客語を取り立てて主題として述べるときは、その客語に「は」を適用する。格詞が省略されることも多い。

酒をは飲まない。 家では飲まない。 (構造表示文)

酒は飲まない。 家では飲まない。 (標準的な文)

28-③ 「対比客語」……否定の原因要素の強調明示



その客語を対比的に取り立てて述べるときは、その客語に「は」を適用する。格詞が省略されることも多い。対比客語は卓立を伴うのがふつうである。

酒巻は飲まない。 家では飲まない。(構造表示文)

酒は飲まない。 家では飲まない。(標準的な文)

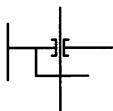
対比されるべき構造は客体を別のものにした肯定構造である。

梅酒は飲む。 外では飲む。

対比客語は強調とともに明示された否定原因要素であるということもできる。否定の原因要素が対比客語という形で強調的に示されている。これを他の客語に換えるか、はずすかすれば、否定の原因がなくなるので、否定属性-(a)na.k- がはずれて、肯定構造になる。

上の「梅酒は飲む。」「外では飲む。」は他の客語に換えて肯定になった例であり、また、「(彼,) 飲む。」とすれば、これは対比客語を外して肯定にした例となる。

28-④ 「論理客語」

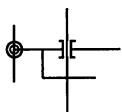


特に客語を取り立てるということもなく、論理関係そのものについて述べようとする場合には格詞をそのまま使用する。

酒を飲まない。 家で飲まない。(構造表示文)

酒を飲まない。 家で飲まない。(標準的な文)

28-⑤ 「事象対比客語」



28-③の「対比客語」は客語を対比するのであるが、この「事象対比客語」は事象そのものの対比を行う。文の形が、また客語がふつう卓立を伴うことは「対比客語」の文と同じである。

ただし、事象対比が可能なのは、「酒を」と「飲む」のように客語と動属性とが緊密に関係しあって一つの事象を描き出し、対比すべき事象(たとえば「たばこを吸う」)が明瞭となる場合である。「家で・飲む」のように、対比すべき事象が明瞭とは言えない場合には事象対比はむずかしい。

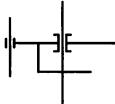
酒巻は飲まない。 家では飲まない。(構造表示文)

酒は飲まない。 家では飲まない。(標準的な文)

対比されるべき構造は客体と動属性を別のものにした構造である。

たばこは吸う。 外では遊ぶ。(?)

28-⑥ 「選択客語」



選択客語というのは「何を飲まないか?」、「どこで飲まないか?」のような質問に答えるような場合に出てくる客語である。この場合は、「飲まない」が先に決まっていて、後から「酒」や「家」が選択される。を格詞は省略されることもない。

酒を飲まない。 家で飲まない。(構造表示文)

酒(を)飲まない。 家で飲まない。(標準的な文)

こうして、主格の描写法に準じる形で、客体に関わる6通りの描写法の一つひとつに特徴づけと名称づけができる、明瞭に区別できるようになった。

「の」にはいくつの意味がある? → p. 300

「の」のいろいろな使い方の関係は? → p. 300

「～のだ」って、どんな構造? → p. 313

「おいしいのです」は「おいしいです」とどう違う? → p. 317

「～ので」「～のに」の「で・に」は格? → p. 318

「魚のおいしいの」ってどんな構造? → p. 320

「結婚するの望みあり」って、変? → p. 322

強調構文はどんな構造? → p. 324

「自由の女神」は「自由な女神」とは限らない? → p. 326

「この」「こんな」って、どんな構造? → p. 328

第29章

描写法の組合せ

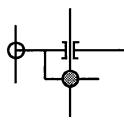
29.1 1主体、1客体をもつ構造の描写

次に、主体と客体が共存している構造を描写することについて検討してみよう。主体、客体が1つずつ入っている「彼①酒を飲む」という構造をとりあげることにする。構造は再び図28-1, -2である。

29.2 描写法の組合せ

すでに見たように、主体に8通り、客体に6通りの描写法があるので、文にするときには、 8×6 の計48通りの描写法があることになる(表29-1ではスペースの関係で主語の⑤⑥を外してある)。1つの単純な構造に対する描写法が48通りもあることは驚くべきことである(さらに語順のことまで考えれば、表層文のあり方はそれよりかなり多くなる)。

①～⑧の○付番号で示していた描写法の番号から○を外して、1～8をその描写法の番号とする。こうすることによって、たとえば、主体を「②主題主語」として描写し、客体を「③対比客語」として描写するとき、そこにできあがる文の番号は[23]番となる。番号が文の情報を伝えることになる。ち



なみに[23]の文は、

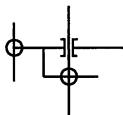
[23] 彼①は酒②は飲まない。 彼③は酒④は飲まない。

という形になる。

29.3 可能性の低い組合せ

理論的には48通りの描写法の組合せがありうるわけであるが、中には可能

性の低い組合せ、不可能な組合せもある。



たとえば、

[33] 彼のは酒~~を~~は飲まない。 彼は酒は飲まない。

という文では、「彼」を他人と対比させた上で、「酒」を他の飲料と対比させ、主体・客体の両方で同時に対比を行っている。1文2対比となっており、これはにわかに受け入れがたい。可能性の低い組合せであるといえる。

これと同じ形の文でも、次の[23]あるいは[32]のように、どちらか一方が対比で他方が主題であるのであれば、非常に自然のこととして受け入れられる。

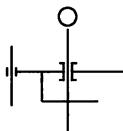
[23] 彼のは酒~~を~~は飲まない。 彼は酒は飲まない。

[32] 彼のは酒~~を~~は飲まない。 彼は酒は飲まない。

また、70番台の事象対比主語の場合は実体と動属性の組合せそのものを対比させるのであるから、ここから客体を取り立てて、それについて語ったりすることは困難なはずである。それで、[71] [72] [73] [75] [76]はまず不可能な組合せであろうと考えられる。

29.4 組合せ例

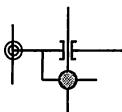
いくつかの組合せ例をあげておく。主語8種と、客語6種との組合せのうちから [16] [25] [32] [43] [53] [64] [74] [81] の8つのパターンを取り出し、[53] [64]以外に言及する(70番台については、[74]しか可能ではないので、選択の余地はない)。[53]の例は「彼、酒は飲んでない。」、[64]の例は「彼は酒を飲んでない。」のようなものがある。



[16] 話題主語+選択客語

[16] 彼の酒を飲まない。 彼、酒(を)飲まない。

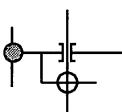
これは、たとえば「彼は何を飲まないの」というような質問に答えたりするような場合に生ずるパターンである。



[25] 主題主語＋事象対比客語

[25] 彼のは酒をは飲まない。 彼は酒は飲まない。

彼について述べる文で、客語が事象対比であるから、この文に対比されるべき文は、たとえば「彼はたばこは吸う」のようなものである。



[32] 対比主語＋主題客語

[32] 彼のは酒をは飲まない。 彼は酒は飲まない。

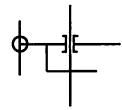
客語「酒」について述べる文である。これは上の[25]とは異なることに注意したい。表層文は語順だけで見ると、たまたま同じになっている。

また、「酒」が主題になっているので文頭に出して、

[32] 酒は彼は飲まない

とすることも大いにありうる。

主語が対比されているので、この文に対比されるべき文は、たとえば「彼女は飲む」のようなものである。



[43] 事象主語＋対比客語

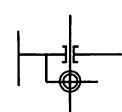
[43] 彼が酒をは飲まない。 彼が酒は飲まない。

事象主語であるから、たとえば次のような連体修飾節の中で使用される文となる。

彼が酒は飲まないことを、皆知っている。

対比客語が用いられているので、これに対比されるべき文がある。たとえば次のようなものである。

彼が梅酒は飲むことを知る人は少ない。



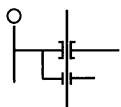
[74] 事象対比主語＋論理客語

[74] 彼がは酒を飲まない。 彼は酒(を)飲まない。

事象対比主語であるから「彼が酒を飲まない」こと全体が対

比の対象である。このときは、たとえば次のような対比文となる。

彼女はたばこを吸う。



[81] 選択主語＋話題客語

[81] 彼が酒を飲まない。 彼が酒、飲まない。

酒について口語的に述べる文である。選択主語なので、たとえば次のような質問文に答える際に出てくる文である。

酒、だれが飲まないの？

29.5 同一文に複数のニュアンス

以上のように見えてくると、表層文の形は同じでも、ニュアンスの異なるものがいくつかあっても当然であることがわかる。試みに1組拾い出して見てみる。

「彼は酒は飲まない。」という表層文は、次のように少なくとも4通りのニュアンスの可能性がある。

[22] 彼は酒は飲まない。（「彼が酒を飲まない」ことを言う。）

[23] 彼は酒は飲まない。（彼はほかのものは飲む。）

[25] 彼は酒は飲まない。（彼はたばこは吸う。）

[32] 彼は酒は飲まない。（他の人は酒を飲む。）

同一の構造ではあっても、発話者が異なる描写法を適用するので、このようなことが生じる。

29.6 語順は決定的ではない

たとえば、[13]「彼、酒は飲まない。」という文では、発話者は「彼」を話題主語とし、「酒」を対比客語として発話している。この文の語順を変え「酒は彼、飲まない。」のようにしたとしても、発話者自身が描写法を変えているのでなければ、意味は保たれる。

つまり、意味は語順が決めるのではなく、発話者の描写への態度が決める

のである。「酒は彼、飲まない。」という語順の文は、[13]のほかに[12]でも、[15]でも、場合によっては[82]でも可能であるが、これら四者の意味は、語順が同一であるにもかかわらずそれぞれに異なっている。日本語では語順をもとにして意味や文法を考えることはできない。描写法の方が重要なのである。

29.7 1主体、2客体をもつ構造の描写

次に、客体を1つ増やして「彼の家で酒を飲まない」の構造の描写について検討してみたい。この構造ではさらに「家」という客体が付加され、客体が2つになっている。構造は図29-1、-2のようになる(ただし、図では「彼」と「家」を「は」でふちどりし、「彼のは家では酒を飲まない」にしてある)。

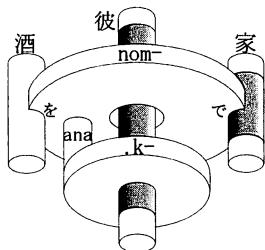


図29-1 彼は家では酒を飲まない

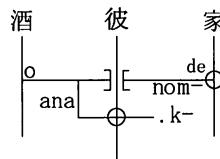
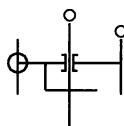


図29-2

29.8 描写法の組合せ例

主体が1つ、客体が2つあるので、この構造からは理論的に $8 \times 6 \times 6$ の288通りの文が描写可能なはずであるが、その中には可能性の低い組合せや不可能な組合せもあるので、実際には百数十通りの組合せとなるだろう。表29-2には可能性が低いか不可能であろう「対比が2つあるもの」、「選択と対比が共存しているもの」、「事象対比主語で客語を話題・主題とするもの」、また「事象話題主語」「事象主題主語」の関わるものをおいて除外して、101のものをリストアップしてある。ここでその一つひとつについて検討してもよいが、要領は前節と同じことなので、次のものを例として取り出して

検討するにとどめたい……[131], [223], [312], [434], [744], [866]。



[131] (副)話題主語 + 対比客語 + (副)話題客語

[131] 彼, 家では酒, 飲まない。

この描写には話題語が正副2つある。ふつう正話題語にしようとするものを文頭に出し、副話題語を後にする。この描写例では、彼を正話題主語とし、酒を副話題客語としてある。これを逆にして、彼を副話題主語とし、酒を正話題客語とすれば、

酒, 家では彼, 飲まない。

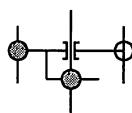
酒, 彼, 家では飲まない。

となる。もちろん、次のように対比客語を文頭に置くことも可能である。

家では彼, 酒, 飲まない。

家では酒, 彼, 飲まない。

語順のいかんにかかわらず、[131]の描写法では「彼は外では酒を飲む」というニュアンスになる(29.6 参照)。



[223] (副)主題主語 + (副)主題客語 + 対比客語

[223] 彼は家では酒は飲まない。

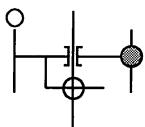
この描写には主題語が正副2つある。ふつう正主題語を文頭に出し、副主題語を後にする。この描写例では、彼を正主題主語とし、家を副主題客語としてある。これを逆にして、彼を副主題主語とし、家を正主題客語とすれば、

家では彼は酒は飲まない。

となる。もちろん、次のように対比客語を文頭に置くことも可能である。

酒は彼は家では飲まない。

この[223]では、語順のいかんにかかわらず、「彼は家ではほかのものは飲むが酒は飲まない」というニュアンスになる(29.6 参照)。



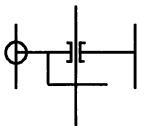
[312] 対比主語+話題客語+主題客語

[312] 彼は酒は家で、飲まない。

この描写には主題語と話題語があり、両者とも客語である。文頭に出やすいものは、ふつう、主語、主題、話題等であるが、この描写では主語が対比主語になっており、対比は主題の一種であることから、この主語が最も文頭に出やすい状況にある。

他の語順の可能性もあるが例示は省略しよう。

この描写には「他の人は家で酒を飲む」というニュアンスがある。



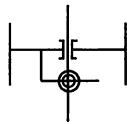
[434] 事象主語+対比客語+論理客語

[434] 彼が家では酒(を)飲まない。

事象主語なので、たとえば節の中の主語となり、次のような文の一部として描写されることが多い。

私は彼が家では酒(を)飲まないことを知らなかった。

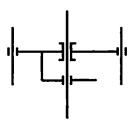
もちろん「外では飲む」というニュアンスがある。



[744] 事象対比主語+論理客語+論理客語

[744] 彼は家で酒(を)飲まない。

700番台の描写で可能なのはおそらくこの一つだけであろう。この描写では主語が事象対比になっているので、たとえば「他の人が家でたばこを吸う」というようなことがニュアンスにあるはずである。



[866] 選択主語+選択客語+選択客語

[866] 彼が家で酒(を)飲まない。

この描写は、3つとも選択語となっており、極端な例である。このような描写はたとえば、「だれがどこで何を飲まないか、言ってください」と言わされたような場合の回答として生じる。「飲まない」だけが先

に決定していて、他の実体が後から選定されるわけである。

なお、「だれがどこで何をしないか、言ってください」、と言われた場合にも「彼が家で酒(を)飲まない」のような文が生じ得るが、その場合は「飲まない」が先に決定しているわけではないので[866]にはならず、[444]となる。そこには事象文が現れる。

以上で否定の構造とその描写法の大原則を押さえることができた。次に、いくつかの基本的なことがらについてさらに検討しておきたい。

中学校の国語の教室で

先生： 動詞「よむ」を意志を表す形にするときはどうしますか。

生徒： 動詞 yom- に意志を表す語尾 -oo をつけます。

先生： とんでもない。だれがそんなことを教えたのですか。

「よむ」を未然形「よも」にして、これに意志を表す助動詞「う」をつけて作るのです。助動詞は普通活用をしますが、この「う」は特殊なもので活用をしません。終止形で使います。有名な博士が「不変化助動詞」と名づけたものです。しっかり覚えなければ高校には入れませんよ。

学校文法に「形態素」などという言語学の概念を持ち込んではならない。いったい「よも」とは何なのだろうか。形態素ではない。かといって語でもない。ひらがな信仰の学校文法には、言語学では律することのできない学校文法(国語文法)特有の神秘性がある。合理的に頭を使おうとする生徒にはたいへん気の毒なことである。

表29-1

1主語と1客語の場合の否定文

事象対比主語では客語は語れない(51,52,53,55,56)。語順変更可

番号	主語	を格客語	構造表示文	判定	標準的な文	対比例・疑問例	否定のニュアンス
11	話題主語	話題客語	彼 _φ 酒 _e 飲まない	酒, 彼, 飲まない。			彼を話題に 酒を話題に
12	話題主語	主題客語	彼 _φ 酒 _e 飲まない	酒は彼, 飲まない。			彼を話題に 酒を主題に
13	話題主語	対比客語	彼 _φ 酒 _e 飲まない	彼, 酒は飲まない。		彼, ビールは飲む。	彼を話題に ビールを飲むこととの対比で
14	話題主語	論理客語	彼 _φ 酒を 飲まない	彼, 酒(を)飲まない。			彼を話題に 事実として
15	話題主語	事象対比客語	彼 _φ 酒 _e 飲まない	彼, 酒は飲まない。		彼, たばこは吸う。	彼を話題に たばこを吸うこととの対比で
16	話題主語	選択客語	彼 _φ 酒を 飲まない	彼, 酒(を)飲まない。		彼, 何を飲まない?	彼を話題に 「何を」を明らかにする形で
21	主題主語	話題客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒, 飲まない。			彼を主題に 酒を話題に
22	(副)主題主語	(副)主題客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。			彼を主題に 酒を主題に
23	主題主語	対比客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。		彼はビールは飲む。	彼を主題に ビールを飲むこととの対比で
24	主題主語	論理客語	彼 _φ は 酒を 飲まない	彼は酒(を)飲まない。			彼を主題に 事実として
25	主題主語	事象対比客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。		彼はたばこは吸う。	彼を主題に たばこを吸うこととの対比で
26	主題主語	選択客語	彼 _φ は 酒を 飲まない	彼は酒(を)飲まない。		彼は何を飲まない?	彼を主題に 「何を」を明らかにする形で
31	対比主語	話題客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒, 飲まない。			他人との対比で彼を主題に 酒を話題に
32	対比主語	主題客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。			他人との対比で彼を主題に 酒を主題に
33	対比主語	対比客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。			他人との対比で彼を主題に ビールを飲むこととの対比で
34	対比主語	論理客語	彼 _φ は 酒を 飲まない	彼は酒(を)飲まない。		彼女は酒を飲む。	他人との対比で彼を主題に 事実として
35	対比主語	事象対比客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒は飲まない。		彼女は酒は飲む。	他人との対比で彼を主題に たばこを吸うこととの対比で 酒を飲む行為のないことを表明
36	対比主語	選択客語	彼 _φ は 酒 _e 飲まない	彼は酒(を)飲まない。		彼女はビールを飲まない。	他人との対比で彼を主題に 「何を」を明らかにする形で む行為
41	事象主語	話題客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	酒, 彼が飲まない			彼に関する事実として 酒を話題に のないことを表明
42	事象主語	主題客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	酒は彼が飲まない			彼に関する事実として 酒を主題に
43	事象主語	対比客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	彼が酒は飲まない		彼がビールは飲む	彼に関する事実として ビールを飲むこととの対比で
44	事象主語	論理客語	彼 _g が 酒を 飲まない	彼が酒(を)飲まない			彼に関する事実として 事実として
45	事象主語	事象対比客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	彼が酒は飲まない		彼がたばこは吸う	彼に関する事実として たばこを吸うこととの対比で
46	事象主語	選択客語	彼 _g が 酒を 飲まない	彼が酒(を)飲まない		彼が何を飲まない?	彼に関する事実として 「何を」を明らかにする形で
51	事象対比主語	話題客語	彼 _g は 酒 _e 飲まない?	彼は酒, 飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に 酒を話題に
52	事象対比主語	主題客語	彼 _g は 酒 _e 飲まない?	彼は酒は飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に 酒を主題に
53	事象対比主語	対比客語	彼 _g は 酒 _e 飲まない?	彼は酒は飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に ビールを飲むこととの対比で
54	事象対比主語	論理客語	彼 _g は 酒を 飲まない	彼は酒(を)飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に 事実として
55	事象対比主語	事象対比客語	彼 _g は 酒 _e 飲まない?	彼は酒は飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に たばこを吸うこととの対比で
56	事象対比主語	選択客語	彼 _g は 酒を 飲まない?	彼は酒(を)飲まない。		彼女はたばこを吸う。	他人の(非)喫煙との対比で彼を主題に 「何を」を明らかにする形で
61	選択主語	話題客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	酒, 彼(が)飲まない。		酒, だれが飲まない?	「だれ」を明らかにする形で 酒を話題に
62	選択主語	主題客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	酒は彼(が)飲まない。		酒はだれが飲まない?	「だれ」を明らかにする形で 酒を主題に
63	選択主語	対比客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	彼(が)酒は飲まない。		だれが酒は飲まない?	「だれ」を明らかにする形で ビールを飲むこととの対比で
64	選択主語	論理客語	彼 _g が 酒を 飲まない	彼(が)酒(を)飲まない。		だれが酒を飲まない?	「だれ」を明らかにする形で 事実として
65	選択主語	事象対比客語	彼 _g が 酒 _e 飲まない	彼(が)酒は飲まない。		だれが酒は飲まない?	「だれ」を明らかにする形で たばこを吸うこととの対比で
66	選択主語	選択客語	彼 _g が 酒を 飲まない	彼(が)酒(を)飲まない。		だれが何を飲まない?	「だれ」を明らかにする形で 「何を」を明らかにする形で

表29-2 (1/3)

1主語と2客語の場合の否定文 (1/3)

右のものは除外してある……対比が2つあるもの、選択と対比が共存しているもの、対比事象主語で客語を話題・主題とするもの。／ 語順変更は可。

番号	主語	で格客語	を格客語	標準的な文	否定のニュアンス
111	(副)話題主語 (副)話題客語 (副)話題客語	彼	家で	酒 飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に 酒を話題に 飲酒を否定
112	(副)話題主語 (副)話題客語 (副)話題客語	酒は	彼 家で	飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に 酒を話題に 飲酒を否定
113	(副)話題主語 (副)話題客語 対比客語	彼	家で	酒は飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に 別のものを飲むこととの対比で 飲酒を否定
114	(副)話題主語 (副)話題客語 論理客語	彼	家で	酒(を)飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に 行為としての 飲酒を否定
115	(副)話題主語 (副)話題客語 事象対比客語	彼	家で	酒は飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に たばこを吸う事実との対比で 飲酒を否定
116	(副)話題主語 (副)話題客語 選択客語	彼	家で	酒(を)飲まない。	彼を話題に 「家で」を話題に 「何を」を明らかにする形で 飲酒を否定
121	(副)話題主語 主題客語 (副)話題客語	家では	彼 酒	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に 酒を話題に 飲酒を否定
122	話題主語 (副) 主題客語 (副) 主題客語	酒は	彼 家では	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に 酒を話題に 飲酒を否定
123	話題主語 主題客語 対比客語	家では	彼 酒(を)	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に 別のものを飲むこととの対比で 饮酒を否定
124	話題主語 主題客語 論理客語	家では	彼 酒(を)	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に 行為としての 饮酒を否定
125	話題主語 主題客語 事象対比客語	家では	彼 酒は	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に たばこを吸う事実との対比で 饮酒を否定
126	話題主語 主題客語 選択客語	家では	彼 酒(を)	飲まない。	彼を話題に 「家で」を主題に 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
131	(副)話題主語 対比客語 (副)話題客語	彼	酒 家で	は飲まない。	彼を話題に 外で飲むこととの対比で 家での飲酒を 酒を話題に 否定
132	話題主語 対比客語 主題客語	酒は	彼 家では	飲まない。	彼を話題に 外で飲むこととの対比で 家での飲酒を 酒を話題に 否定
134	話題主語 対比客語 論理客語	彼 家で	は酒(を)	飲まない。	彼を話題に 外で飲むこととの対比で 家での 行為としての 饮酒を否定
141	(副)話題主語 論理客語 (副)話題客語	彼	酒 家で	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での飲酒を 酒を話題に 否定
142	話題主語 論理客語 主題客語	酒は	彼 家で	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での飲酒を 酒を話題に 否定
143	話題主語 論理客語 対比客語	彼 家で	酒は	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での飲酒を 別のものを飲むこととの対比で 否定
144	話題主語 論理客語 論理客語	彼 家で	酒(を)	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での 行為としての 饮酒を否定
145	話題主語 論理客語 事象対比客語	彼 家で	酒は	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での飲酒を たばこを吸う事実との対比で 否定
146	話題主語 論理客語 選択客語	彼 家で	酒(を)	飲まない。	彼を話題に 事象生起の場所としての家での飲酒を 「何を」を明らかにする形で 否定
161	(副)話題主語 選択客語 (副)話題客語	彼	酒 家で	飲まない。	彼を話題に 「どこで」を明らかにする形で 酒を話題に 饮酒を否定
162	話題主語 選択客語 主題客語	酒は	彼 家で	飲まない。	彼を話題に 「どこで」を明らかにする形で 酒を話題に 饮酒を否定
164	話題主語 選択客語 論理客語	彼	家で	酒(を)飲まない。	彼を話題に 「どこで」を明らかにする形で 行為としての 饮酒を否定
166	話題主語 選択客語	彼 家で	酒(を)	飲まない。	彼を話題に 「どこで」を明らかにする形で 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
211	主題主語 (副)話題客語 (副)話題客語	彼は	家で	酒 飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 酒を話題に 饮酒を否定
212	(副)主題主語 話題客語 (副) 主題客語	彼は	酒は	家で 飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 酒を話題に 饮酒を否定
213	主題主語 話題客語 対比客語	彼は	家で	酒 飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 別のものを飲むこととの対比で 饮酒を否定
214	主題主語 話題客語 論理客語	彼は	家で	酒(を)飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 行為としての 饮酒を否定
215	主題主語 話題客語 事象対比客語	彼は	家で	酒 飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に たばこを吸う事実との対比で 饮酒を否定
216	主題主語 話題客語 選択客語	彼は	家で	酒(を)飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
221	(副)主題主語 (副) 主題客語 話題客語	彼は	家では	酒 飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 酒を話題に 饮酒を否定
222	(副)主題主語 (副) 主題客語 (副) 主題客語	彼は	家では	酒は飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 酒を話題に 饮酒を否定
223	(副)主題主語 (副) 主題客語 対比客語	彼は	家では	酒は飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 別のものを飲むこととの対比で 饮酒を否定
224	(副)主題主語 (副) 主題客語 論理客語	彼は	家では	酒(を)飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に 行為としての 饮酒を否定
225	(副)主題主語 (副) 主題客語 事象対比客語	彼は	家では	酒は飲まない。	彼を主題に 「家で」を話題に たばこを吸う事実との対比で 饮酒を否定

1主語と2客語の場合の否定文 (2/3)

番号	主語	で格客語	を格客語	標準的な文	否定のニュアンス
226	(副) 主題主語 (副) 主題客語	選択客語		彼は家では酒(を)飲まない。	彼を主題に 「家で」を主題に 「何を」を明らかにする形で飲酒を否定
231	主題主語	対比客語	話題客語	彼は酒、家では飲まない。	彼を主題に 外で飲むこととの対比で家の飲酒を 酒を話題に 否定
232	(副) 主題主語	対比客語	(副) 主題客語	彼は酒は家では飲まない。	彼を主題に 外で飲むこととの対比で家の飲酒を 酒を主題に 否定
234	主題主語	対比客語	論理客語	彼は家では酒(を)飲まない。	彼を主題に 外で飲むこととの対比で家の飲酒を 行為としての 飲酒を否定
241	主題主語	論理客語	話題客語	彼は酒、家で飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を 酒を話題に 否定
242	(副) 主題主語	論理客語	(副) 主題客語	彼は酒は家で飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を 酒を主題に 否定
243	主題主語	論理客語	対比客語	彼は家で酒は飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を 別のものを飲むこととの対比で 否定
244	主題主語	論理客語	論理客語	彼は家で酒(を)飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を 行為としての 飲酒を否定
245	主題主語	論理客語	事象対比客語	彼は家で酒は飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を たばこを吸う事実との対比で 否定
246	主題主語	論理客語	選択客語	彼は家で酒(を)飲まない。	彼を主題に 事象生起の場所としての家の飲酒を 「何を」を明らかにする形で 否定
261	主題主語	選択客語	話題客語	彼は酒、家で飲まない。	彼を主題に 「どこで」を明らかにする形で 酒を話題に 飲酒を否定
262	(副) 主題主語	選択客語	(副) 主題客語	彼は酒は家で飲まない。	彼を主題に 「どこで」を明らかにする形で 酒を主題に 飲酒を否定
264	主題主語	選択客語	論理客語	彼は家で酒(を)飲まない。	彼を主題に 「どこで」を明らかにする形で 行為としての 飲酒を否定
266	主題主語	選択客語	選択客語	彼は家で酒(を)飲まない。	彼を主題に 「どこで」を明らかにする形で 「何を」を明らかにする形で飲酒を否定
311	対比主語	(副) 話題客語	(副) 話題客語	彼は家で、酒、飲まない。	他人との対比で 「家で」を話題に 酒を話題に 飲酒を否定
312	対比主語	話題客語	主題客語	彼は酒は家で、飲まない。	他人との対比で 「家で」を話題に 酒を主題に 飲酒を否定
314	対比主語	話題客語	論理客語	彼は家で、酒(を)飲まない。	他人との対比で 「家で」を話題に 行為としての 飲酒を否定
321	対比主語	主題客語	話題客語	彼は家では酒、飲まない。	他人との対比で 「家で」を主題に 酒を話題に 飲酒を否定
322	対比主語	(副) 主題客語	(副) 主題客語	彼は酒は家では飲まない。	他人との対比で 「家で」を主題に 酒を主題に 飲酒を否定
324	対比主語	主題客語	論理客語	彼は家では酒(を)飲まない。	他人との対比で 「家で」を主題に 行為としての 飲酒を否定
341	対比主語	論理客語	話題客語	彼は酒、家で飲まない。	他人との対比で 事象生起の場所としての家の飲酒を 酒を話題に 否定
342	対比主語	論理客語	主題客語	彼は酒は家で飲まない。	他人との対比で 事象生起の場所としての家の飲酒を 酒を主題に 否定
344	対比主語	論理客語	(副) 話題客語	彼は家で酒(を)飲まない。	他人との対比で 事象生起の場所としての家の飲酒を 行為としての 飲酒を否定
411	事象主語	(副) 話題客語	(副) 話題客語	彼が家で、酒、飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に 酒を話題に 飲酒を否定
412	事象主語	話題客語	主題客語	彼が酒は家で、飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に 酒を主題に 飲酒を否定
413	事象主語	話題客語	対比客語	彼が家で、酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に 別のものを飲むこととの対比で飲酒を否定
414	事象主語	話題客語	論理客語	彼が家で、酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に 行為としての 飲酒を否定
415	事象主語	話題客語	事象対比客語	彼が家で、酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に たばこを吸う事実との対比で飲酒を否定
416	事象主語	話題客語	選択客語	彼が家で、酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を話題に 「何を」を明らかにする形で飲酒を否定
421	事象主語	主題客語	話題客語	彼が家では酒、飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に 酒を話題に 飲酒を否定
422	事象主語	(副) 主題客語	(副) 主題客語	彼が酒は家では飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に 酒を主題に 飲酒を否定
423	事象主語	主題客語	対比客語	彼が家では酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に 別のものを飲むこととの対比で飲酒を否定
424	事象主語	主題客語	論理客語	彼が家では酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に 行為としての 飲酒を否定
425	事象主語	主題客語	事象対比客語	彼が家では酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に たばこを吸う事実との対比で飲酒を否定
426	事象主語	主題客語	選択客語	彼が家では酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 「家で」を主題に 「何を」を明らかにする形で飲酒を否定
431	事象主語	対比客語	話題客語	彼が酒、家では飲まない(コト)	彼に関する事実として 外で飲むこととの対比で家の飲酒を 酒を話題に 否定
432	事象主語	対比客語	主題客語	彼が酒は家では飲まない(コト)	彼に関する事実として 外で飲むこととの対比で家の飲酒を 酒を主題に 否定

表29-2 (3/3)

1主語と2客語の場合の否定文 (3/3)

- 2 4 6 -

番号	主語	で格客語	を格客語	標準的な文	否定のニュアンス
434	事象主語	対比客語	論理客語	彼が家では酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 外で飲むこととの対比で家のでの 行為としての 飲酒を否定
441	事象主語	論理客語	話題客語	彼が酒、家で飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの飲酒を 酒を話題に 否定
442	事象主語	論理客語	主題客語	彼が酒は家で飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの飲酒を 酒を主題に 否定
443	事象主語	論理客語	対比客語	彼が家で酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの飲酒を 別のものを飲むこととの対比で 否定
444	事象主語	論理客語	論理客語	彼が家で酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの 行為としての 饮酒を否定
445	事象主語	論理客語	事象対比客語	彼が家で酒は飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの飲酒を たばこを吸う事実との対比で 否定
446	事象主語	論理客語	選択客語	彼が家で酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 事象生起の場所としての家のでの飲酒を「何を」を明らかにする形で 否定
461	事象主語	選択客語	話題客語	彼が酒、家で飲まない(コト)	彼に関する事実として 「どこで」を明らかにする形で 酒を話題に 饮酒を否定
462	事象主語	選択客語	主題客語	彼が酒は家で飲まない(コト)	彼に関する事実として 「どこで」を明らかにする形で 酒を主題に 饮酒を否定
464	事象主語	選択客語	論理客語	彼が家で酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 「どこで」を明らかにする形で 行為としての 饮酒を否定
466	事象主語	選択客語	選択客語	彼が家で酒(を)飲まない(コト)	彼に関する事実として 「どこで」を明らかにする形で 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
544	事象対比主語	論理客語	論理客語	彼は家で酒(を)飲まない。	他人の非喫煙との対比で彼を主題に 事象生起の場所としての家のでの 行為としての 饮酒を否定
611	選択主語	(副)話題客語	(副)話題客語	酒、彼が家で、飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を話題に 酒を話題に 饮酒を否定
612	選択主語	話題客語	主題客語	酒は彼が家で、飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を話題に 酒を主題に 饮酒を否定
614	選択主語	話題客語	論理客語	彼が家で、酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を話題に 行為としての 饮酒を否定
616	選択主語	話題客語	選択客語	彼が家で、酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を話題に 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
621	選択主語	主題客語	話題客語	家では彼が酒、飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を主題に 酒を話題に 饮酒を否定
622	選択主語	(副)主題客語	(副)主題客語	酒は彼が家では飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を主題に 酒を主題に 饮酒を否定
624	選択主語	主題客語	論理客語	家では彼が酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を主題に 行為としての 饮酒を否定
626	選択主語	主題客語	選択客語	家では彼が酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「家で」を主題に 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定
641	選択主語	論理客語	話題客語	酒、彼が家で飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 事象生起の場所としての家のでの飲酒を 酒を話題に 否定
642	選択主語	論理客語	主題客語	酒は彼が家で飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 事象生起の場所としての家のでの飲酒を 酒を主題に 否定
644	選択主語	論理客語	論理客語	彼が家で酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 事象生起の場所としての家のでの 行為としての 饮酒を否定
646	選択主語	論理客語	選択客語	彼が家で酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 事象生起の場所としての家のでの飲酒を「何を」を明らかにする形で 否定
661	選択主語	選択客語	話題客語	酒、彼が家で飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「どこで」を明らかにする形で 酒を話題に 饮酒を否定
662	選択主語	選択客語	主題客語	酒は彼が家で飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「どこで」を明らかにする形で 酒を主題に 饮酒を否定
664	選択主語	選択客語	論理客語	彼が家で酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「どこで」を明らかにする形で 行為としての 饮酒を否定
666	選択主語	選択客語	選択客語	彼が家で酒(を)飲まない。	「だれ」を明らかにする形で 「どこで」を明らかにする形で 「何を」を明らかにする形で 饮酒を否定